

# セネガルでの情操教育活動

藤井 克浩

(16-1, セネガル, 小学校教諭, 川崎市立西梶ヶ谷小学校)

---

## 1 はじめに

私が赴任したセネガルは、西アフリカの最西端、西アフリカの玄関口と言われている国です。ダカールラリーのゴールであるダカールは、セネガルの首都になります。

私の任地、カオラックは首都ダカールから南東へ190km。車で3時間から4時間ほどのところにある、セネガルではダカール、ティエスにつぐ大きな町です。

私の派遣要請内容は、「小学校の情操教育分野(図工、体育、音楽、演劇など)充実への支援を目的として視学官、教員らと協議しつつ数校のモデル校において、教員・生徒に指導を行う。同地に適した指導法の確立、セミナーや報告会を通しての情操教育の普及が求められる。」ということで、現地の先生たちに対して、体育や図工、音楽の授業についてのアドバイスやアイデアの提供、子どもたちへの授業、その他、E F I (教員養成学校)でのセミナーなどを行ってきました。

私の配属は、「I D E N Kaolack Commune」カオラック市教育委員会でした。私は、このカオラックの2代目の小学校隊員にあたります。このカオラック市教育委員会に所属して、市内にある3つの小学校の巡回指導を行いました。巡回指導を行った3校の小学校うち、イブライマ・デュフとニムザットは前任隊員から引き継いだ学校です。アブジャロが新しく巡回校に加わりました。この3校の巡回については、私の赴任前から決まっていました。

## 2 セネガルの情操教育の様子

まず、セネガルの情操教育の様子について、私が見聞きしてきた限りでお話させてもらいたいと思います。あくまでも、私が見聞きした範囲内の話ですので、実際とは異なることがあるかも知れません。

### (1) 図工

まず、図工については、工作の授業はほとんど行われることなく、デッサンが中心でした。工作に使う材料や道具が揃わないということが理由のひとつだと思います。このデッサンの授業は、何か実物を見て描いたり、想像して描いたりするのではなく、先生が黒板に描いたものをそのまま写すというものでした。例えば、先生が黒板にバケツを描けばそのバケツをそのまま描く、魚を描けばその魚をそのまま描く、自分の工夫といったものは認められず、先生が描いたものを、そのとおりに写せることが良

いという評価した。

## (2) 音楽

音楽は、歌唱指導だけです。楽器がないので演奏や伴奏はありません。先生たちのほとんどが、楽譜を読んだり、描いたりが出来ず、ドレミファソラシドすら知らない人が大勢いました。

授業は、先生がその日に歌う歌詞を黒板に書いて、一度歌って聴かせます。そのあと、言葉の説明や歌詞の内容を説明します。それから、いくつかに区切って、先生が歌って、その後に子どもたちが続くということを繰り返して歌を覚えます。

楽器が無く伴奏が出来ないので仕方がないのですが、同じ歌でも、歌う先生によって若干違っているのが面白いなと思いました。

## (3) 体育

体育は、内容がほぼ決まっていて、だいたいサッカーカリレーでした。それも、サッカーだとゴールの代わりに大きな石をふたつずつおいてラインも引かず、ただ試合をしているだけだし、リレーもふたつのグループが競争するとき、なぜかAのチームとBのチームは走る距離があきらかに違うというような、良い言い方をするとおおらかなこともしていました(ハンデだったのでしょうか?)。

でも、授業の流し方はある程度はっきりと決まっていました。まず、全員がそろって行進をし、ランニング、準備体操、そしてその日の活動、最後に先生からの話があって、手洗い・うがいをして教室へ戻ります。この最後の手洗い、うがいをして戻るといのはちょっと意外でした。最初はびっくりして、日本でもきちんとさせなきゃなと少し反省をしました。

それから、セネガルの正式な体育のやり方としてP C M Eという方法があります。これは、少し複雑な方法です。まず、赤、緑、黄(セネガルの国旗の色です)、3色のチームに分かれます。それから、複数の活動の場をつくります。例えばA、B、Cという場を作れば、Aの場は幅跳び、Bの場はリレー、Cの場は旗取り、というように決めて、それぞれの場に赤、青、黄と小グループが別れて競争をします。それぞれの場で対戦をして、ある程度の時間がたったら次の場へ移動するという方法です。でも、この方法は、教育委員会の視学官が見に来るといような特別なときにしかやっていませんでした。というのも、複雑なので、子どもたちが自分の行く場所を覚えるためだけに、何回も繰り返し練習が必要です。視学官が来るらしいとわかると、ふだんほとんど体育をやらないセネガルの先生たちが、何ヶ月も前から毎日このP C M Eを子どもたちに練習させていました。

## 3 情操教育をすすめていくための問題点

次に巡回をすすめていくうちに感じた問題点についてお話しをします。

### (1) 道具の不足

先生たちの知識や技術が不足しているのは当然なのですが(だから、私たち協力

隊員が派遣されているわけですから、とにかく道具がありませんでした。音楽をするのにピアノはもちろん、オルガンがありません。それどころか、ドレミを奏でる楽器など、何もありません。体育も、跳び箱や鉄棒、ハードル、マット、何一つありません。ボール一つすらありません。ボールを使うときには、先生が自分で持ってきたり、子どもたちが使っているボールを借りたりしていました。図工も、工作をするためのハサミやカッター、絵を描くための画用紙、絵の具、色鉛筆、クレヨン・・・子どもたちはほとんど持っていませんでした。

でも実際、文房具などはセネガルで手に入らないものかということ、そうでもなくて、町の市場へ行けば、セネガル人の生活水準からでも、それほど無理なく手に入れることが出来るものでした。ただ、そういうものを子どもの学用品として揃えるという感覚がないように思われました。

## ( 2 ) 現地教員の関心の低さ

私が巡回していた学校では、本当に一部の先生をのぞけば、体育も、音楽も、図工もほとんどやっていませんでした。たぶん、どの学校も同じようなものだと思います。私が校長に「ぜんぜん体育も音楽も図工もやってるように見えないけれど・・・」と話をする、「いややってるよ、お前が来てないときにやってるんだ」と言われました。確かに私の巡回は週に 1 日、2 日ですから、いないときにやっているのかも知れません。でも、私が行っている日に、私が入るクラス以外は外に出て体育をしてないし、歌声もほとんど聞こえてこないということはやってないってことじゃないかなあと思いました。

## ( 3 ) 授業時間の不足

情操教育の授業がほとんど行われない原因の一つとして、授業日数がとにかく少ないということがあると思います。本当にお休みが多いことに驚きました。雨季の 3 ヶ月のバカンス期間は仕方がないのですが、イスラムの宗教的なお祭りのための祭日、先生のストライキ、先生の冠婚葬祭のお休み、それに先生が給料を受け取りに行くためのお休みまであります。

セネガルにもきちんと学習指導要領のようなものがあるので、それを長期休暇のあいだに調べてみたら、とりあえず私の計算では、すべての教科の合計時数は週 31 時間程度になっていました。しかし、実際に行われているセネガルの授業時間数は週 28 時間程度です。さらに学校によっては、子どもの人数に対する、教室の数や教員の不足の問題で、2フレックスと呼ばれる午前、午後に分かれる 2 部制がとられていました。この 2 部制のクラスだと実に週 20 時間しか授業時数がありませんでした。セネガルでは学年末に進級試験があり、その試験に合格しないと進級できません。進級試験では、算数やフランス語といった科目の配点が高く、体育や図工、音楽といった科目には、ほとんど配点がありませんでした。そのいった理由から、情操教育の時間は削られ、

算数やフランス語の授業が優先されて行われていたのだと思います。

#### 4 問題点への取り組み

##### (1) 道具の不足について

活動当初、私はこの巡回校での活動がカオラック全体に広がることの出来るモデルにならないとダメなんじゃないかということを強く意識していました。そのため、必要な道具や材料をすべて私が揃えることに抵抗がありました。隊員が道具や材料を持っていくから必要なものが揃い、だから出来るという活動では他の学校に活動を広げていくことは出来ません。必要な道具や材料を巡回校に揃えて貰うことも、私の活動の一部だと考えていました。

セネガルでは、少し大きな町の市場に行けば、文房具は簡単に購入することが出来ました。セネガルの人たちの暮らしぶりから、文房具はそれほど高価なものではありません。しかし、子どもたち全員に必要な文房具を買ってもらうのはさすがにまだ難しいと思い、校長にお願いして、学校で子どもたち全員が共同で使う道具を購入して貰うことにしました。学校は、年度の初めに学校の維持費として子どもたち一人ひとりから 1000fcfa を受け取っていました。その維持費から、何とか 5000fcfa だけ出して貰えることになりました。どうして 5000fcfa だったかということ、たまたま最初にお願した学校の全校児童がだいたい 500 人で、一人あたり 10fcfa ということで決まりました。この 5000fcfa がセネガルでどれくらいの価値になるかということ、セネガルの人たちが普段食べているフランスパンが 1 本 100fcfa、セネガルのコーラが 1 本 200fcfa です。その 5000fcfa で、はさみを 5 本、小さな色鉛筆 5 本セットを 8 セット、ゴムボールを 2 個、縄跳びをするための縄を 25m、購入することが出来ました。

今思えば、赴任当初で、少し強引なお願の仕方だったなと思います。購入まで時間もかかりました。10 月にお願いして、結局買って貰えたのが、2 月半ばから 3 月になってからでした。それでも、ちょっとした道具があるだけで活動が広がることをセネガルの先生たちに知ってもらいたかったことと、私がいなくても、また活動を終えていなくなっても、セネガルの先生たちが自由に使える道具を学校に残したいという思いがありました。ただ、これで道具が十分揃ったのかということ、1 クラスに子どもは 60 人から多いクラスでは 100 人近く、たった 5 本のはさみではやはり全然足りませんでした。結局は、私の方でそれなりの数を用意して持っていかなければなりませんでした。

##### (2) 授業時間の不足、現地教員の関心の低さについて

授業時間の不足については、セネガルの授業日数の問題だけでなく、赴任当初は私自身がいろいろな研修で任地にいられず、活動を進めることが出来なかったということもあります。

赴任後のバカンスが明けて 10 月、巡回校での活動を始めるとすぐに自転車貸与のた

めの講習会があり上京しなければなりませんでした。戻ってくるとまた赴任後3ヶ月オリエンテーションや、語学研修、技術補完研修会で3週間も任地を離れました。カオラックに戻ってきたのが11月の終わり、さあ活動を始めようと思うと12月の半ばになり、年末年始のお休みに入ってしまった。

研修の合間も、任地に戻れば巡回をしていましたが、学校に行ってみると、今日はストライキだから授業はしない、今日は給料日だからパートナーの先生が来ていない、今日は病気で先生がお休み……。3校の巡回で、一つの学校を訪れるのは週にせいぜい1日、2日。その日に授業が出来ないと次の授業は一週間後です。しかも次の週に必ず授業に入れるとは限りません。また違う理由で授業に入れないこともありました。

限られた授業時間で、せっかくクラスに入っても、担任の先生は私に授業を任せて教室の隅でノートを添削していたり、木陰でお茶を飲んでいたり、家に帰ってしまう先生もいました。

巡回を開始して6ヶ月くらいの間はこんな状態が続いていて、この先の活動期間を考えてはどんな成果を残せるのだろうか、不安やいらいらを募らせていました。

そんななかで2号報告書に、次のようなことを書きました。

#### (小学校教諭の派遣について)

現在、6名の小学校教員が各地で、単独で情操教育の普及に努めている。正直、この派遣形態に疑問を感じる。私の場合、3校の勤務である。前任の隊員からの引継ぎが2校、新規校が1校である。一応それぞれの学校にモデルクラスがあるのだが、そのクラスだけでは学校全体で情操教育への共通理解が得られないと思い、モデルクラスを軸にしながらも、なるべく全学年、クラスへ入るよう時間割を組んでいる。ただ、週に1日、2日では、全てのクラスに、全ての教科で入るには、かなり長いローテーションが必要である。また、本来、授業は1時間限りの単発のものではなく、少なくとも何時間かの連続した流れが必要である。こうした単発の授業の繰り返しでは、教師や子どもたちの関心を引くきっかけにはなっても、実際の教師の技術向上に繋がるのか疑問はある。多少なり、教師の関心を高め、技術向上へのきっかけになるだけでも収穫なのだと言えるかもしれない。しかし、本当にそれだけの成果で良いのだろうか。カオラック市内だけで小学校は約40校。いまの派遣形態で、3代目、4代目と派遣を続けて、カオラックの情操教育をどれだけ向上させることが可能なのだろうか。本当に成果を求めるならば他に方法があるのではないか。

例えばE F I (教員養成学校)への隊員の派遣である。E F Iで半年間の教員養成を終えた新規教員はセネガル各地で勤務に着く。もし隊員がE F Iで情操教育の手法を広めれば、それを学んだ新規教員はセネガルの各地へ散らばり、新しい情操教育の手法を実践していく。そのなかで、そういった新しい手法は現職の先生たちにも広がっていくはずである。数年間のうちにかかなり大きな成果が上がるのではないだろうか。

E F I という専門機関であるため、教授にある程度の語学力を必要するという心配があるかもしれない。しかし、私が見る限り、教養や関心のある人ほど、つたない言葉でも熱心に理解しようと努力してくれている。フランス語が理解出来ない子どもたちへの授業をよりも、やり易い面があるかもしれないとさえ思う。

もうひとつの方法が一都市への集中派遣、または複数派遣である。やはり一都市に一人の派遣では、その都市の情操教育どころか派遣校の情操教育力の向上すら容易ではない。複数派遣を行うことで行える活動も広がる。また任地での注目度もあがるだろう。地域の先生たちを集めた研修なども行いやすくなる。現在のようにセネガル全土に隊員を広げて行くのではなく、まず一地区に集中して隊員を派遣してセネガルで行える情操教育のモデルプランをつくり、その後、全域に広げていくのはどうだろうか。

事務所へ E F I (教員養成学校) への隊員派遣、協力隊員の同任地へのグループ派遣を提案しました。この時点では、あくまでもこの将来への希望であって、もちろん今すぐにとということではありませんでしたが。

ところで、現地の教員がみんな情操教育への関心が低かったかと言えば、決してそういうわけではありません。私のカウンターパートであったムッシュ・ジャロやムッシュ・バのように、私がいなくても自分ひとりできちんと情操教育の授業を行っている先生もいました。彼らは、個人的に私の家まで鍵盤ハーモニカを習いに来たり、簡単な日本語にも興味を持って私から教わったりしていました。そういう先生たちがいたこともきちんと伝えておきたいと思います。

## 5 E F I (教員養成学校) セミナー

2号報告書で、事務所に提案していた E F I への隊員派遣が、かたちを変えて実現することになりました。たまたま調整員が E F I へ出張したときに、E F I への隊員派遣について校長に話をすると、隊員の派遣というかたちではなく、短期のセミナーというかたちではどうかという提案を頂いてきました。少し日程に問題がありましたが、私はぜひやりたいと思いました。そのお話を頂いたのが5月初めか半ばだったと思います。セミナーを行うなら日程は6月の半ばしかないということでした。準備期間がヶ月もありません。加えて、このころ私は大使館に協力を頂いて、モデル校のひとつで日本映画祭や絵画コンクールなどの準備もしていました。日程的な厳しさを感じましたが、やはりこの機会は大切にしたいと思い、同期の小学校隊員3人で相談をしてやることに決めました。任地が離れているのでメールなどで連絡を取り合いながら準備をすすめていましたが、3人が実際に集まる事が出来たのは、隊員総会のために首都に上がってきていた数日とセミナーの前日だけでした。

### (1) 第1回 E F I (教員養成学校) セミナー

セミナーは、6月15日、16日の2日間で行いました。当初は3日間の予定でしたが、E F Iの都合で2日間に変更になりました。希望者を対象にしたセミナーだったので、どれくらいの受講生が集まるのかと心配をしましたが、500名ほどいる学生の半数近くが応募してくれたそうです。そのなかからE F Iに抽選をしてもらい40名強の学生を対象に行いました。

### 第1回セミナープログラム

	一日目	二日目
	オリエンテーション ・講座開講に当たって	
1限	体育 ・体ほぐし ・縄跳び(ダブルダッチ)	体育 ・体ほぐし ・ボール運動(ドッチボール)
2限	図工 ・紙工作 ・折り紙	図工 ・デッサン (芋版画・混色指導) ・折り紙
3限	音楽 ・遊び歌 ・ボディパーカッション (楽譜指導)	音楽 ・遊び歌 ・ボディパーカッション (リサイクル楽器紹介)
		オリエンテーション ・講座閉講にあたって ・質疑応答

このセミナーは、学生にも、参観に来ていたE F Iの先生たちにも、とても好評で終わることができ、ぜひ継続してやってもらいたいという話を頂きました。そして、このE F Iでのセミナーは、私の活動にとって大きな転機になりました。

### (2) 活動の柱を分割

1年間活動を続けたころ、なかなか成果が上がらず、情操教育の普及につなげるために、活動をどのようにしていけば良いのだろうと本当に悩んでいました。巡回校を減らすことも考えましたが、それぞれの校長から続けて欲しいと頼まれて出来ませんでした。授業の進め方をいろいろ試してみました。私が現地の先生に授業のアイデアを提供して、実際の授業は現地の先生にやってもらう方法。授業は私がすすめて現地の先生に補助をしてもらう方法。いろいろと試しましたが、打ち合わせの時間が取れない、授業中に抜け出してしまふ先生もいる。授業で使う道具や材料なども、結局ほとんど私が用意しなければならないなど、これという方法を決めかねていました。そして、このままでは、私が帰国したあとに、現地に残るものがほとんどないだろうなという不安を感じていました。

でも、活動の場にE F Iが加わったことでその悩みや不安をすっきりとさせることが出来ました。巡回校での活動は、将来を担う子どもたちへの情操教育をすすめる場であると考え、先生たちへの指導や助言はあまり意識しないようにする。セネガルでの情操教育技術の移転や普及の場はE F Iの学生を対象に考える。このように考える

ことで、それまで巡回校に道具や材料を持ち込むことに抵抗を感じたり、現地の先生たちが授業中に抜け出したり、お休みしたりすることにストレスを感じていたことも、

「子どもたちへの私の授業だから」と割り切れるようになりました。

(3) 第2回、第3回 E F I (教員養成学校) セミナー

1月、年が明けて E F I が始まるとすぐに2回目の E F I セミナー、続いて2月にも3回目の E F I セミナーを行いました。この頃には、私の帰国の準備も始まっていました。そして希望していた同任地への複数隊員派遣も私の後任から始まることになり、すでに17年度2次隊で後任の一人が着任していました。

さて、E F I のセミナーですが、1回目と同様に、それぞれ2日間ずつの日程で行いました。ただし、今回の講師は小学校教諭隊員だけでなく、幼稚園教諭、青少年活動、家政、空手、村落など、他の分野の隊員にも大勢参加をしてもらい、セミナーの内容を充実させることが出来ました。

第2回、第3回セミナープログラム

	一日目	二日目
	オリエンテーション ・講座開講に当たって	
1限	体育 ・体ほぐし ・縄跳び(短縄)	体育 ・体ほぐし ・ドロケイ ・リレー
2限	音楽 ・遊び歌 ・ボディパーカッション (楽譜指導)	音楽 ・遊び歌 ・ボディパーカッション ・リコーダー練習
3限	図工 ・ゴミ箱づくり ・折り紙	図工 ・紙人形づくり
		オリエンテーション ・講座閉講にあたって ・質疑応答

6 最後に

青年海外協力隊に参加することは、私の長年の夢でした。駒ヶ根での訓練を含めて、この2年間は、私にとってかけがえの無い財産になりました。この協力隊で私がセネガルの人たちに残してきたものよりも、私がセネガルで得たものの方がずっと大きいと思います。ただ、それほど大きな成果は残せなかったかもしれませんが、後任の隊員や後輩の隊員たちが、かたちを変えながらも、私の活動を引き継いでくれている話を聞くと、

私の活動が生き続けていて、きちんと意味のある活動であったのかなと感じています。

赴任当初の私は、セネガルの人たちの仕事ぶりや考え方を受け入れられず、「あなたたちのために私がこれだけやっているのに、どうしてあなたたちは努力しないんだ」そんな傲慢さで、彼らに接していました。言葉できちんと思いが伝えられないもどかしさを、感情でぶつけていました。思い返すと本当に恥ずかしくなります。そんな私と1年9ヶ月、一緒に活動してくれたセネガルの人たちのおおらかさ、以前はいい加減さとして映らなかったものが、今ではとても懐かしく、恋しくなっています。

彼らと過ごした1年9ヶ月で、はるか遠くに感じていたアフリカ大陸が、本当に近くに思えるようになりました。また、ぜひ彼らに会いに戻りたいと思います。

(質問から)

・前任者とのつながりは意識されましたか

最初はやはり継続を意識して、つながりを持たせたいと思っていました。そういった気持ちもあって巡回校を引き継いだのですが、実際に巡回を始めてみると前任者がどういう活動をやっていたのかということが、あまりよく見えない。あとを引き継ぎたいと思っても出来ないこともありました。私の場合、前任者が日本からピアノとリコーダーを1クラスの児童分ほど送って貰っていました。ぜひ授業で子どもたちに触れさせてあげたいと思いましたが、1人ではセネガルの子もたち何十人の楽器指導はやっぱり無理でした。結局、あまり前任者の活動は意識しないで、を流れのなかで自分が出れることを見つけて活動するようになりました。

・病気などで子どもたちが休んだり、亡くなったりという保健衛生上の子どもたちの様子はどうでしたか。

3校を巡回し、いろいろなクラスに入っていたので、どの子が欠席しているというようなことは、まったくわかりませんでした。セネガルにもマラリアは多くて、隊員も罹ります。蚊帳の普及活動やポリオのキャンペーンなどもやっていました。セネガルの人たちは、貧しいものには手を差し伸べるというイスラムの教えは大切にしていたし、食べ物比較的恵まれた環境だったので、お腹が膨れて栄養失調というような子どもは、あまりみかけませんでした。正直、申し訳ありませんが、具体的なことはよくわかりません。

・現地の先生から学んだことはありますか。

先生として何かを彼らから学んだかということ、いまちょっと「これだ」と思い浮かぶものは出てきませんが、彼らの人柄から得たものはたくさんありました。

セネガルの先生は、鞭を使うなど上から下へという指導の仕方で、子どもたちへのかかわり方という面では・・・と思いましたが、私のような言葉の話せない異国人とも向き合って、かかわりあって、受け入れてくれる姿勢は、なかなか日本では無いものかも知れません。もし、日本の教育現場に、異質な人が入ってきたときに、同じように受け入れられているのだろうかと思いました。